



平成27年度 重点政策提言について

よねだまさこ
米田雅子



(一社)日本プロジェクト産業協議会 (JAPIC) 森林再生事業化委員会* 委員長
慶應義塾大学先端研究センター 特任教授

日本プロジェクト産業協議会 (JAPIC) 森林再生事業化委員会は、産業界の力を結集し、「次世代林業システム」の実現に向けた諸活動を精力的に実施してきました。

この度、慶應義塾大学理工学部教授 伊香賀俊治先生や国立研究開発法人森林総合研究所バイオマス化学研究領域樹木抽出成分研究室 大平辰朗先生の研究成果の勉強会や、3回の意見交換会を実施し、委員会メンバーで、平成27年度の重点政策提言「集約化を根本から推進、五感を通して木の良さ再発見」をとりまとめました。

政策提言は12項目(表①)とし、6月4日に関係省庁へ手交いたしました。今回の政策提言は大きく4つの項目に分かれておりますが、特に提言のタイトルにもなっている、2と4についてご紹介します。

まず、「集約化を根本から推進」のための具体的な項目として、集約化の妨げになる所有者不明又は境界未確定の林地を減らすべく、「2-①平成のデジタル検地の加速」を挙げています。航空写真、航空レーザー測量等のデータを活用し、それら土地境界情報を集約・整理すること、また、林野庁事業で確認された森林境界を地籍調査における土地の境界とみなせるよう、地籍調査の運用を見直すことも盛り込んでいます。そのような所有者不明の林地等がある場所で森林施業の集約化を図るには、土地の所有権にも関わるような複雑な手続きが必要な場合もあり、それを市町村等が経常業務の傍らで行うことは困難です。そこで、「2-②集約化専門組織の構築」として、それらに対応する専門的な組織・体制の構築を提案しています。また、林業には路網の整備が不可欠ですが、この林業路網と国道や県道、農道、里道など「異種の道」を繋いで防災・命の道としても活用することを「2-③異種の道ネットワークの推進」として提案しています。

次に、もう1つの項目「五感を通して木の良さ再発見」については、「4-①五感を通して木の良さを伝える

1 次世代林業モデルの実現
① 民国連携、次へのステップアップ
② 五木地域モデル事業の構築推進
2 集約化を根本から推進
① 平成のデジタル検地の加速
② 集約化専門組織の構築
③ 異種の道ネットワークの推進
3 木材搬出の増大とバランスの取れたバイオマス利用
① 全木集材に向けた機械利用と人材育成
② バランスの取れたバイオマス利用
③ ICTを活用して森林資源・木材需給情報を共有・活用
4 木の良さ再発見
① 五感を通して木の良さを伝える運動の展開
② 木の良さを実感する体験型施設の整備
③ 建築主、設計者、施工者を対象とした木構造・木質建材データベース
④ 森林整備で山の防災 + 低地の防災

表① 平成27年度重点政策提言(12項目)

る運動の展開」として、樹木の香り成分の性能や健康・癒し効果などを科学的な分析により定量化する研究を推進し、その成果を普及することとしています。また、「4-②木の良さを実感する体験型施設の整備」では、全国に木材の良さを体験できる「国産材体験パーク」を設置し、国産材利用の拡大を図ります。さらに、木の利用用途として半数を占める建築の分野では、「4-③建築主、設計者、施工者を対象とした木構造・木質建材データベース」として、木の利用に関する各種の情報を一元化した専門家向けのインターネットサイトの作成を目指します。また、森林を整備することで生まれる効果も木の良さとして考え、「4-④森林整備で山の防災+低地の防災」として、森林整備が山地では土砂災害の低減の効果を発揮し、低地では間伐材等を液状化や軟弱地盤対策として活用することで国土強靱化だけでなく、地球環境の保全や林業の活性化にも繋がりたいと考えています。

JAPIC 森林再生事業化委員会では、森林資源を活かし、我が国の林業のため、農林水産省、国土交通省、経済産業省、総務省等関係省庁、地方、民間企業が連携し、本提言が実行されることを期待しております。



▲徳山技監（国土交通省）への手交



▲今井林野庁長官への手交

<p>2 集約化を根本から推進 ①平成のデジタル種地の加速</p> <p>視座の課題 種地の集約・整理を進めつつ、森林の機能・効能を最大化し、森林資源の持続可能な利用を図る。森林の集約・整理を進めつつ、森林の機能・効能を最大化し、森林資源の持続可能な利用を図る。</p> <p>① 航空写真や航空レーザー測量のデータや地形データ等を活用、地形・植生データ上で集約・整理を進めつつ、森林の機能・効能を最大化し、森林資源の持続可能な利用を図る。</p> <p>② 都市の集約・整理を進めつつ、都市の機能・効能を最大化し、都市資源の持続可能な利用を図る。</p> <p>③ 国土の集約・整理を進めつつ、国土の機能・効能を最大化し、国土資源の持続可能な利用を図る。</p>	<p>2 集約化を根本から推進 ②集約化専門組織の構築</p> <p>集約化専門組織の構築 集約化専門組織の構築 集約化専門組織の構築</p> <p>集約化専門組織の構築 集約化専門組織の構築 集約化専門組織の構築</p>	<p>2 集約化を根本から推進 ③異種の道ネットワークの推進</p> <p>異種の道ネットワークの推進 異種の道ネットワークの推進 異種の道ネットワークの推進</p> <p>異種の道ネットワークの推進 異種の道ネットワークの推進 異種の道ネットワークの推進</p>
--	---	--

▲提言 2-①～③ 集約化を根本から推進

4 木の良さ再発見
① 木を育てて木を育てる運動の展開

1. 木の育ちの定量化研究の推進
① 育ちの定量化研究の推進
② 育ちの定量化研究の推進

2. 市民への普及、普及活動
① 市民への普及、普及活動
② 市民への普及、普及活動

4 木の良さ再発見
②木の良さを体感する体験型施設の整備

木を育てて木を育てる運動の展開
木を育てて木を育てる運動の展開
木を育てて木を育てる運動の展開

4 木の良さ再発見
③ 建築主、設計者、施工者を対象とした木種別・木質種別データベース

木の利用に関する各種の情報を一元化したインターネットサイトの作成
建築主、設計者、施工者を対象として、木の利用に関する各種の情報を一元化したデータベースを作成し、インターネット上で自由に必要な情報へアクセスできるようにして、建築物の木質化・木質化への取組みを促進する。

木の利用の促進
建築主・設計者・施工者への普及・啓発
建築主・設計者・施工者への普及・啓発

木質種別の情報
用途・用途別・用途別・用途別
用途・用途別・用途別・用途別

公共支援機関
設計者・設計者・設計者
設計者・設計者・設計者

4 木の良さ再発見
④ 森林整備で山の防災・低地の防災

森林整備で山の防災・低地の防災
森林整備で山の防災・低地の防災
森林整備で山の防災・低地の防災

▲提言 4-①～④ 木の良さ再発見

* 事務局：〒103-0025東京都中央区日本橋茅場町3-2-10鉄鋼会館6階 Tel 03-3668-2885 Fax 03-3668-8718